

「神の価値を成し遂げる」

～言葉の力～

ネヘミヤ 1:1 ~ 11、Ⅱコリント 4:6 ~ 18

英語にはかつて、無駄な努力を表す言葉として、「黒い白鳥（ブラックスワン）を探すようなものだ」ということわざがありました。黒い白鳥はいないと信じられていましたが、黒い白鳥が発見され、この発見によって「常識を疑うこと」、「物事を一変させること」、「自分を絶対視しないこと」の象徴として使われるようになりました。またこれを下地にして、「ありえないと思われていたことが突然発生すると、予想されていた場合よりも影響が苛烈になる」というブラック・スワン理論が提唱され、保険会社のCMにも使われるようになりました。神様の目から見た価値というのは、私達が今見る価値とは違います。例えば服を選ぶ時何を見るでしょうか。値段、流行りや人の評価。自分が気に入って買っても、ダサいと言われると、流行りに遅れていると価値のないものになってしまいます。経済資本主義の社会は、いかに合理的であるか、いかに無駄を省いて成果を上げるか、短期間で利益を出すかに価値を置きます。しかし、物事の価値は変わります。かつては資本主義であった社会も、目先の利益だけでなく、継続的に事業を継承していくこと、永続的に人々の生活を守ることに重きを置くようになりました。国連は持続可能な開発目標（SDGs）を17項目定めて、貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できることを目指す普遍的な行動を呼びかけています。これは国際全人類の社会共通の目標です。神様の価値は、一見無駄に見えることがあります。聖書は目に見えることに価値を置かないように教えています。

■ ネヘミヤの祈り

ネヘミヤは捕囚の民でしたが、ペルシヤの王の献酌官となり、王から信頼されていました。ネヘミヤはハナニが、ユダから来た数人の者と一しょにやって来た時に、捕囚から残って、のがれた同朋のユダヤ人と故郷エルサレムのことを尋ねました。「あの州の捕囚からのがれて生き残った残りの者たちは、非常に困難の中にあり、またそしりを受けています。そのうえ、エルサレムの城壁はくずされ、その門は火で焼き払われたままです。」とハナニは答えました。ネヘミヤは、「このことばを聞いたとき、すわって泣き、数日の間、喪に服し、断食して天の神の前に祈って（1:4）」と書いてあります。ネヘミヤは行動するまでの4か月間祈っていたのです。目的を見失っているのに、慌てて走り回っても迷子になるだけです。走り回っても目的に近づくことはなくて、結局戻らなくてはならない、無駄なこととなってしまいます。ネヘミヤは祈りながらずっと待っていました。

■ ネヘミヤの願い

「そのとき、王は私に言った。「あなたは病気でもなさそうなのに、なぜ、そのように悲しい顔つきをしているのか。きっと心に悲しみがあるに違いない。（2:2）」王がネヘミヤに心を留めていたのは、彼が自分のことで感情的になったり、不安定になったりすることがなく、人のことを自分のことのように悲しみ、祈るような人物であったから、どんなこと

にも耐え、忠実に行う人物だったからでしょう。

■ ① 志は祈りによって

志は祈りによらなければ実現しません。時に願うことは大きなことで、無理に思えるようなことが多いです。しかし、信じることで叶えられることを私達は知っています。私達は夢を成し遂げてくださるのは神様だと知っています。大切なことはこの志が素晴らしいものであること。祈って待つことができる、一番良い時にかなえられるのです。素晴らしい種であればよくふくらんで良いパンとなるように、時が来るまで、この志を磨いて待つのです。正しいことをしようと思うとそこに不純物があるはいけません。「人は心に計画を持つ。主はその舌に答えを下さる。人は自分の行ないがことごとく純粋だと思ふ。しかし主は人のたましいの値うちをはかられる。（箴言 16:1）」

■ ② 反対者に祈りの備え

神様の計画をこの地で成し遂げようとする時、大きな妨害が必ず起こります。ネヘミヤが神殿を再建しようとした時もたくさんの攻撃や妨害に会いました。それでも祈り、知恵を得て、すべきことに従いました。

■ ③ 立てあげる言葉

悪いことが起きると、民は混乱して問題を起こしましたが、ネヘミヤの言葉によって立て直すことができました。私達はどんな言葉を語っているのでしょうか。歴史を見ると、物事を進めないのは、お金や環境や人のせいではありません。そこに集められた人達から出る言葉によって成し遂げることができずに終わるのです。「私は信じた。それゆえに語った。」と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っている私たちも、信じているゆえに語るのです。それは、主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、あなたがたといっしょに御前に立たせてくださることを知っているからです。ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。（Ⅱコリント 4:13-18）

■ 神の価値を成し遂げる

ネヘミヤは神殿を回復させるのが目的ではなく、人々の心を回復させたかったのです。彼らの心がもう一度神様に戻るために、再建しなければならないと志を与えられました。志を成し遂げてくださる神様を信じて、いかなる妨害にも負けず、すべてを神様にゆだねて、忠実に行いました。人の目に価値のないように見えることであっても、決断するのは神様です。私達は祈り、忠実に従うことだけです。

（要約者：藤原 友規子）

（2019年1月27日）